

協会だより

Japan Tourism Facilities Association

No.115



3月

発行／公益社団法人国際観光施設協会

総務委員会

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋

2-8-5 多幸ビル九段2階

TEL03-3263-4844

FAX03-3263-4845

E-mail : kankou01@syd.odn.ne.jp

URL : <http://www.kankou-fa.jp>

2018年3月7日

ホテルズ2018に参加して

副会長 涌井史郎

ホテルズ2018が、本協会の存在感を大きく示しながら開催された。そのオープニングイベントで、例年同様、貢献度が高くない万年副会長が、せめてもの罪滅ぼしとしての話題提供をさせていただいた。

タイトルは、「ガストロノミーからONSENガストロノミーツーリズムへ」。身土不二といったマクロビオティックな意味での美食が、EUの過疎地域の振興策と一体化され、フランスのアルザスやスペインのバスクなどで大変なブームを巻き起こしている。しかも実に大きな観光的経済成果を上げ、地域振興に貢献している。こうしたEUの成果を和食という世界無形文化遺産を有している我が国も導入しようと観光庁が発想し、それに共鳴した環境省が、温泉法を所管しているところから主導し、温泉とガストロノミーを一体化できないかと構想した。

日本独自といってもよい湯治の伝統をガストロノミーに付け加え、単立の絶滅状態に置かれている湯治場を再興し、温泉地と共に、日本独自の地域に伝わる伝統的食文化と酒類にも焦点を当て「ONSENガストロノミーツーリズム」を確立しようと公民連携の取り組みが一昨年スタートした。その運動の紹介である。涌井はその会長に推されお引き受けをし、その取り組みの粹みに助力をさせていただいた。

それにしても驚きである。そのオープニングイベントに、環境省の森本次官、国際観光振興機構や日本

観光振興協会、ONSENガストロノミーツーリズム推進機構などの会長・理事長が顔を出すと登録されたことである。

新年の挨拶にも、同様のことを記述させていただいたが、時代は大きく変わろうとしている。会場でお茶をふるまう粹人中山前会長も同様の感想を漏らしておられた。協会が随分と進化しようとしていることを実感したその日であった。

2030年を目標とした国連が掲げる新たな持続的未來への目標。SDGsを達成する上にも観光は大きな役割を有している。未来に対する不安こそが旅への大きな動機であることは歴史を振り返れば十分理解できる。地球の未来、日本の未来、都市の未来、地方の未来それぞれに多くの人々が不透明感。敢えて強い表現を用いれば不安を抱えている。であればこそ未来を覗いてみたい。或いは未来へのポジティブな姿のヒントを体感したい。併せてそうした変化の中での不易。変わらない心の落ち着かせどころを探したいとも願っている。それが旅の根源である。

点から面に、そしてグローバルな動きと唯一ローカルを共存させる観光。それを支える環境。そうした課題に技術という側面から永遠に最適解を追求する姿勢を貫いてほしい。今協会は若さに溢れている。

老人は大いにエールを送りながら、若さ溢れる協会の動きを齢を重ねた知恵で支援していきたい。

HOTERES JAPAN 2018 報告

ホテルズ実行委員長 浅野一行

2018年第46回国際ホテル・レストラン・ショーが2月20日(火)～23日(金)に開催され、昨年より4,800名以上も多い約61,200名の来場者を得て、盛況裡に終えることができました。

ホスピタリティデザイン東京2018ゾーンの中央に位置する当協会ブースは、ひときわ目立つ七色のバナーが来場者を迎え、連日賑わいを呈しました。今年も永続的なテーマとして掲げた「日本のこころ」のもと、恒例の「旅するこころ」「木づかいのこころ」「匠のこころ」「エコ・小のこころ」の4つのテーマ展示&セミナーに、「交流部会」と「耐震研究会」の展示&セミナーを合わせ、合計23小間、207㎡での出展となりました。

また、「ホスピタリティデザインセミナー」の過半を、「ホテル・旅館の開発&デザイン 最新潮流2018」と銘打って主催しました。話題のホテル・旅館の開発に携わった事業者・運営者・設計者によるこのセミナーは、相変わらずの大人気で多くの聴衆を集めました。

さらに今年は新しい試みとして、2日目の涌井副会長のオープニングセレモニー・基調講演の後に、会員相互の交流の場「サロン」を設け、ワインと軽食を振舞いました。ホテルズショーがその舞台を提供してくれた形となり、技術委員会による観光CSV活動が軌道に乗る中、同時に素朴な会員間の交流の大切さを実感しました。

建築部会の活動状況とこれからの予定

建築部会長 崎山 茂

建築部会では会員の交流と情報共有を目的として、これまで通り新しい施設の見学会を企画してまいります。

4月にはハイアットセントリック銀座の見学会を予定しています。その一方で、宿泊施設を巡るだけでなく、インバウンド客を呼び込む広い意味での観光資源を東京近郊に探る試みを続けていきます。一昨年「まちふねみらい塾」との共同で続けている東京湾岸の観光資源を探る活動をさらに進展させ、夏頃には東京の内陸河川を巡る水上セミナー第3弾を企画していきます。

加えて、建築部会のメンバーが関わる秩父エリアの観光資源を巡って地域の方々との親交を深めるなどの息の長い活動も続けていきたいと考えています。

設備部会の活動状況とこれからの予定

設備部会長 小川正晃

2017年度、設備部会は幹事会3回、交流部会1回、見学会を2回開催しました。

交流会では、シンポジウム「エコ小活動等による生産性向上」の開催や、設備部会員に対するアンケート調査の結果や交流部会のあり方などが話題として取り上げられ、活発な意見が寄せられ、交流部会のあり方などについて検討しました。

今年度は手薄だった設計領域の委員に、新たに大手設計事務所および総合建築施工会社からの委員が4名就任されましたので、行事を見学、講演、新情報、ホテルズの4グループに分けて計画し、見学会を1回開催し、さらに3月16日に話題となっているZEBビル（東京ガス関内ビル）の見学会を開催します。

今年度は、部会長の交代を含め新体制で活動する予定で、設備部会交流部会を2回、施設見学交流会を2回予定しているほか、交流会会員相互の懇親を深める行事を開催し、交流会のさらなる活性化を図りたいと思います。

インテリア部会の活動状況とこれからの予定

インテリア部会長 寺本昌志

今年度はインテリア部会の活動を、より活性化するために、また部会内における会員同士の交流が積極的に行われるように、これまで行われなかったインテリア部会の全体交流会を行いました。

インテリア部会では、これまで登録されている会員数が100社を超えている為、部会活動がスムーズに進められる様、部会内を四つのグループに分けて進めてきました。その結果、活動自体は活発に行われてきましたが、交流という点ではグループ内に限定されてきました。そのため、部会全体での交流機会がなく、もっとそういった機会を作ってほしいとの声が聞かれるようになり、本来のこの部会の目的である会員同士の交流を深め、各グループ同士の活動内容を理解した上で、部会活動が行えるように全体での交流会を行う事となりました。

この全体交流会は2017年10月26日に行い、参加者は100名を超える盛会となりました。交流会では各グループのプレゼンがあり、懇親会には十分な時間を取り、より親密な交流がもてるようプログラムを組みました。お蔭様で皆さんからは「またこういった機会を持ちたい」との声も頂きましたので、来年度も開催したいと思っております。今後も会員の皆様の望まれるような部会運営を行いたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

平成30年度通常総会のお知らせ

次の通り、平成30年度の通常総会ならびに関連行事を開催いたします。ご予定願います。

日時：平成30年6月13日（水）14時～19時
会場：ホテルグランドパレス
通常総会：14時～15時20分
関連行事：

1. セミナー16時～17時30分
講師は内閣官房参与、東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局長の平田竹男氏を予定しています。
2. 情報交歓会17時30分～19時

第110回ゴルフ会の予告

恒例の国際観光施設協会の春のゴルフコンペを下記のとおり開催致します。

日時：平成30年5月17日（木）
コース：高坂カントリークラブ
プレイ費：約20,000円
（キャディ付・昼食+1ドリンク付・パーティ+ドリンク飲み放題付）各自精算
会費：4,000円

コンペ終了後は表彰式と懇親会、賞品も多数用意しております。会員の皆様の親睦の場として、お誘いあわせのうえ、多くの参加をお待ちしております。

♥編集後記♥

ホテルズ2018が今年も盛大の内に無事に終了しました。今年は会期2日目の協会のブースにおいて、CSV活動の初めての試みとして飲食を共にした交流会が開催されましたが、これまた大変な盛況でした。会長のご挨拶のあと涌井副会長の基調講演が行われ終了後、鈴木会長による乾杯の音頭と共に和やかな雰囲気が一気に醸し出されて、会場一杯に交流の輪が広がりました。協会の交流の機会は幾つか設定されていますが、年度行事の締めくくりとして行われるホテルズ会場での交流会は、特別な効果も期待されることから、今後も続けられることを大いに期待したいと思います。 Y. K